



20名超えないとかあるいは50名超えないとか、その程度の把握で最初はよいのです。

4. 葬儀の形式（宗教）

- 仏式  神式  キリスト式  
 無宗教  決まっていない

無宗教にした場合、「お経よんであげてほしかったのに・・・」と後々のご親族とのトラブルにならないように事前に理解をもとめておくのもひとつの方法です。

無宗教の方でも、お坊さんに読経してもらうのであれば仏式になります。

5. ご遺体の安置先

- 自宅  斎場や葬儀社など他の場所

お亡くなりになった後、ご遺体を何処に安置するのかということは、とても重要です。

マンションや集合住宅等の場合、ストレッチャーとってご遺体を載せて移動する車がエレベーターに入らないなど、ご自宅に安置することが物理的に不可能な場合もあります。

6. お葬式を行う場所

- 自宅  斎場  集会場  
 寺院  その他式場

日程を優先するのか場所を優先するのかで葬儀を行う場所もかわってきます。

お葬式の人数や、お葬式の形式を考慮して考えましょう。

最近では、施設的なことや葬儀そのものの準備、食事等の接待などを身内や親族の方をお願いするわずらわしさから逃れるために斎場を利用する人が増えています。しかし、まわりへの気遣いなど大変さはありますが故人の住み慣れたご自宅で行うのも感慨深いものです。

7. お葬式をお願いする葬儀社へ連絡

- 決まっている  決まっていない

（葬儀社名）（電話番号）

互助会や共済などを利用する場合は、実際の祭壇の写真、料理の写真などみせてもらい希望を伝え実際にはいくらかかるのかあらかじめ見積りをもらっておくとこんなはずではなかった。ということにはならないでしょう。

※1) お葬式をお願いする葬儀社が決まってなく、どうしたらよいのかわからない場合は、お気軽にお問合せください。葬儀社と打合せをする前の心得やお見積りについてのアドバイスをいたします。

8. 宗教者へ連絡

- ある  ない

（宗教者名）（電話番号）

お付き合いのある僧侶や牧師、神父がいらっしゃる場合は、葬儀の日程を決定する際に各先生方の都合も考慮する必要がでてくることもあります。トラブル回避のためにも事前に連絡先を確認しておくことが大切です。

9. お葬式にかかる予算（自分の考え）

およそ 万円位

葬儀費用は本当に分かりづらいものです。参列人の人数や祭壇の種類で驚くほど変わってきます。予算をたてるのも難しいかもしれません。ご自身の考えがあるようであれば、事前に葬儀社へ伝えることは大切です。もし、わからなければ最初は漠然と予算をきめ実際に葬儀社からの見積り

を見比べながら徐々に絞り込んでいくのもひとつの方法です。

10. 本人が亡くなってしまったら、どうしたらよ  
いかわからなくなってしまう品がないかど  
うか

- |                                 |                                |
|---------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 預金通帳   | <input type="checkbox"/> 生命保険証 |
| <input type="checkbox"/> コレクション | <input type="checkbox"/> 骨董品   |
| <input type="checkbox"/> アルバム   | <input type="checkbox"/> その他   |

金融機関では、本人が死亡したことを知った時点で、預貯金等は一切引出せなくなってしまう  
ます。相続人全員の承認があって、はじめて動かせるようになるのです。印鑑や通帳、貸金庫の鍵  
や暗証番号などあらかじめ本人に遺言しておいてもらおうと安心です。また、趣味の書籍や骨董品、  
アルバムなどどう処分したらよいのか判断しにくいものです。それらも事前に遺言しておいて  
もらうとよいでしょう。

11. 万が一の際、葬儀社から訪ねられること

- |                                     |                                |
|-------------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 故人の生年月日・年齢 |                                |
| <input type="checkbox"/> 故人の住所・本籍   |                                |
| <input type="checkbox"/> 家紋         | <input type="checkbox"/> 宗旨・宗派 |
| <input type="checkbox"/> 喪主（代表者）    | <input type="checkbox"/> 世話役   |

万が一の際には、多くのことを葬儀社からたずねられ、準備しなければなりません。そのため、  
ゆっくりお別れする間もなく気がつけば葬儀が終っていたということが多いのです。事前にまと  
めておくことで、それらを少しでも回避したいものです。

最近では、エンディングノートといって自分の要望をノートへまとめておいたり、**遺言書**を作成  
される方がふえてきていました。 捕らえ方として、万が一の時に備えておきたいということも  
あるでしょうし、そうしておくことでどういう人生を送りたいのかというビジョン（将来を構想  
する）をもつことにもなるでしょう。私たちの人生は誰にでも限りがあります。「最期まで自分  
らしく」あるために、どんなリスクがあるのかを考えそれに対するも備えや準備をしておきたい  
ものです。

「いいお葬式だったね」

誰しものが必ず迎えるお別れ・・・。

だからこの優しい思い出を残したい。

送る人々の想いをのせて



ウェルフェアセレモニー  
**Welfare**  
0120-353-294  
0130-393-394

株式会社 ウェルフェア



0120-353-294